

愛護センターだより

発行:敦賀市少年愛護センター
住所:敦賀市東洋町1番1号
電話:0770-23-0189 Fax:0770-23-0523

『青少年健全育成都市宣言』都市:敦賀市

本、読んでる？

2021年8月 国立青少年教育振興機構による「子どもの頃の読書活動の効果に関する調査研究」により、「子どもの頃の読書量が多い人は、意識、非認知能力と認知機能が高い傾向がある」ことが明らかになったそうです。この「非認知能力」というのは、困難な状況でも前向きで意欲的な行動や思考ができ、失敗しても柔軟な対応やアプローチを行う適応力、自己肯定感や他者を思いやる心を持っていることなど内面的なスキルで、子ども達の将来のいろいろな場面で必要とされる力です。この力が低いと、高い知能・学力があっても、その能力を十分に発揮することは期待できません。さて、その非認知能力を高めることが期待できる読書。子ども達の実態はどうでしょうか。



ベネッセ教育総合研究所が、2022年7月～9月、子どもの読書行動の実態や読書行動に影響する要因に関する13398人のデータをまとめ、公表しました。

平日の1日の読書時間を聞いたところ、小学1年生から高校3年生の全体の49.0%が「読書をしな」と回答。また、学年が上がるほど、「読書しな」と回答が多くなる傾向が見られました。これは、学年が上がれば読書する時間を生み出しにくくなる、やることが多くなる…ということでしょう。また、男子よりも女子の方が読書時間が長い傾向があったそうです。



この調査は2015年から毎年行われていますが、その2015年と比べると、全体の1日の読書時間の平均が2015年の18.2分から2022年の15.2分と、3.0分減少したという結果となりました。「3分」と聞けば、そんなに変わらない気もしますが、「読まない」子が増え、その「0分」の子も含めての平均ですから、読んでいた子の読書時間はかなり短くなったことが考えられます。

どうしたら子どもが本を読むようになるか…。この調査では、「小学校入学前に週4日以上読み聞かせをしてもらった子どもは、どの学年に上がっても平均読書時間が長い」ことが報告されています。また、その効果は中学生まで続くそうです。さらに、小学1年生時点で読書習慣を身につけている子どもは、その後も長い時間読書をする傾向があるということも明らかになりました。そして、家に沢山の本がある子どもや本を読む大切さを伝えている保護者の子どもほど、1日の平均読書時間が長いこともわかっています。

幼児期の子ども達に読み聞かせを！というのは、時間的に難しいご家庭もあるかと思いますが、子どもの将来のために時間の確保と豊かな読書環境をお願いします。

私たちの未来は…

2023年9月に『BIGLOBE』が全国の18～29歳の男女1000人（内18～24歳が350人）を対象に、「若年層の意識調査」をインターネットで実施しました。

その中の「日本社会の未来に希望を感じるか」という質問に対して、18～24歳350人の内、何と74.6%が「希望を感じていない+あまり感じていない」と回答したのです。「明るい未来に向かって…」と学校を巣立ち、「希望を胸に新しい生活をスタートしている」と大人達は思っていたわけですが、子ども達は決して明るい未来が待っているとは思っていないようで、大変残念です。

さて、何でこんな思いとなっているのか、他の調査結果を見てみると、「未来に希望を感じない」と答えた261人は、その理由として

- 1位 政治に期待が持てない……56.7%
 - 2位 少子高齢化が進んでいる……42.1%
 - 3位 自分の資産が安全ではない……26.8%
 - 4位 格差社会により分断が進んでいる…24.9%
 - 5位 利己的な人が多い……19.2%
- といった回答が上位。



また、「現在、日本社会は良くなっていると感じますか」との問いには、「良くなっていると感じない」と答えた割合は、68.0%

「関心のある社会問題」についての問いには

- 1位 地球温暖化 ……56.9%
- 2位 高齢化社会 経済格差 ……56.6%
- 4位 止まらない円安 ……55.1% が上位。



そして、74.0%が「日本の社会は不公平だ」と感じていて（感じる33.1%・やや感じる40.9%）、「不公平だと感じ」ている259人の内、64.1%が「経済格差」を問題視し、49.4%が社会的な地位による格差があることを嘆き、37.5%がジェンダーギャップ（性別による格差）について不公平感を募らせています。

当然、61.7%がこうした社会をつくってきた「年上の世代に対しての不満」を持ち、「不満がある」216人は、62.0%が「前時代的な価値観の押し付け」、37.0%が「経済成長の停滞」、31.5%が「政治の停滞」、30.6%「人権意識の低い社会構築」「少子化による人口減」を挙げています。



高校を卒業して、さらに専門的に学ぶ進路をとったり、社会に歩み出したりした子ども達の多くが、自分の進む未来を肯定的に思えないことは悲劇です。未来に希望を感じない状況を作ってしまったのは、大人の責任です。「不公平感」をなくし、明るい未来を描けるようにしていくためには、政治の力が必要ですが、今、子ども達はその政治にも期待が持てない状況となっています。

それなら、子ども達自身が自分達の手で社会を変えていこうとする意欲を育て、手立てを身に付けさせなければなりません。子ども達の話聞き、やりたいことを支援し、後押しできるように努めていきましょう。

ゲーム課金

親が知らない間に、子が勝手にゲームの課金を繰り返して、かなり高額な請求が送られてきてびっくり！…というネットトラブルの話をよく耳にします。

さて、このゲーム課金。実態はどんなものなのでしょうか。

SMBCコンシューマーファイナンス株式会社が2023年7月に「10代の金銭感覚についての意識調査2023」を実施しており、その中にゲーム課金についてのアンケートがありましたので紹介します（全国の15～19歳の学生男女1000人に行ったインターネット調査）。



まず、「ゲームでのアイテムの購入やガチャ等の利用（ゲームへの課金）をしていますか」という質問には、



か」という質問には、

している……………11.1%

していないが、したいと思う……………21.5%

合わせて32.6%が「ゲーム課金に前向き」でした。

前年も同様の調査をしており、その調査結果との比べると、「ゲーム課金に前向き」な人の割合は、高校生では3.3ポイント下がって35.6%でしたが、大学生等では3.7ポイント上がって28.2%。前年より下がったと言うものの、高校生の方が「前向き」ということになります。

また、「ゲーム課金をしている」と答えた111人に、「ひと月あたり使っている金額」を尋ねた項目では、平均は「3102円」。これには男女差もあり、男子は137円の減少して2584円、女子は2129円増加して4324円でした。この1年、女子に魅力的なゲームが増えてきたということでしょうか？2584円も増えて4324円とは…。しかも、平均で…。

次に、「ゲーム課金に関する意識」については、「お金を使ってでもゲームを有利に進めたいと思う」は14.7%。ただ、女子の8.4%に対して、男子は21.0%とこちらは男子が高くなりました。男子はお金を使ってでも勝ちたいけど、そんなにつき込んだりはしない。逆に、女子はそこまで勝ちたくはないけど、つき込むならドバツと！ということ？女子は、ゲームに入れ込むと金銭感覚が薄れる傾向があるのか、それだけのお金を持っているのか…。



また、「ほしいアイテム・キャラを手に入れるためのお金は惜しみたくないと思う」は21.8%、「お金を使わないと楽しく遊べないと思う」は16.0%、「レアアイテムやレアキャラを手に入れたときは誇らしい気持ちになる」は49.9%となり、いずれの項目でも男子のほうが高くなっています。

最後に、「ゲーム課金したことに後悔したことはありますか」という質問には、

後悔したことがある……………24.5%

後悔したことはない……………75.5%

「後悔」も勉強ですが、ほどほどのところで後悔してほしいところです。

スマホに向かう時間が長くなっている子ども達。街中でもゲームをしている子どもの姿をよく見かけますが、その3割が課金に前向きで、かなりの額をつぎ込んでいるとすると、金銭感覚やお金の出所が心配になります。一度家庭内で確認した方がよさそうですね。



青少年への愛のひと声活動……補導日誌から



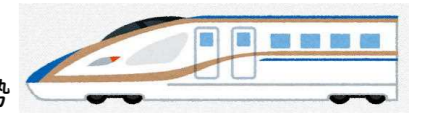
○3月12日（火）19:00

アル・プラザ敦賀6Fフードコートに、小学2年生くらいの男の子が1人で勉強していた。「1人で来てるの？」と聞いたら、「親が買い物をしている」と返答。しっかりと受け答えしていたので、知らない人についていけないように注意した。

○3月14日（木）15:00

アル・プラザ敦賀で、ロングヘヤーにお腹が見えるミニTシャツにミニスカートファッションの小学3～4年生と思われる女子2人組を見かけました。今どきの小学生はおしゃれ！と思いました。

○3月15日（金）19:00



北陸新幹線敦賀開業日前日、敦賀駅の改札口周辺には大勢の人がいた。みどりの窓口も長蛇の列であった。オルパーク2Fは翌日の準備でプラレールが並んでいて、駅前通りはイベントのステージや物産展の準備で車両通行止め。関係者が慌ただしく動き回っていた。北陸新幹線敦賀開業により、市外から来訪者が増えそうで観光や商業面でのメリットがある一方、犯罪等が持ち込まれやすくなるという心配もある。子ども達を犯罪等に巻き込まれないようにする観点から、これまで以上に視野を広げて補導活動を行っていく必要がある。

○3月21日（木）15:00



休館している図書館の前で座り込んでいた小学生の男児に話を聞いてみると、「母が兄の発表会を見に行くため、“図書館で宿題をしないさい”と車から降ろし、急いで発表会に向かった。しかし、図書館が休館で入れず寒さのあまり蹲っていた」とのこと。男児から母親の携帯番号を聞き、かけたが通じず。兄の学校に電話をかけるも発表会は終了していた。愛護センター所長と相談し、愛護センター待機としようとしたところに母親が迎えに来た。図書館は月に一度の木曜休館（第3木曜日は休館日）。玄関まで行くと看板が出ているが、子どもを降ろして急いで学校に向かったのか気づかなかったのだろう。

○3月28日（木）19:00



市外から部活でホテルグランビナリオTSURUGAに宿泊していると思われる女子高生5～6人が、横断歩道を渡る際に、停車した車に対して頭を下げてお礼していたのを見て感心した。新しくできた新幹線側の駅も出来たばかりで綺麗。近隣に民家も少ないため、今後スケボーをするたまり場になるのではないかと感じた。車・バイクも集まりそう。

